

小学校

平成 13 年 度

教育研究員研究報告書

特 別 活 動

東京都教職員研修センター

平成13年度

教 育 研 究 員 名 簿

分科会	地 区	学 校 名		氏 名
低学年分科会	江 東 中 野 足 立 江 戸 川 東 村 山	南 砂	△	横 山 祥 江
		啓 明		長 坂 智 恵 子
		東 淵 江		扇 元 結 加
		下 鎌 田		須 永 奈 苗
		東 萩 山	○	田 中 秀 子
中学年分科会	豊 島 北 葛 飾 小 金 井 西 東 京	目 白	○	久 慈 玲 子
		滝 野 川	△	高 橋 努
		金 町		津 田 利 枝
		前 原		猿 渡 明 美
		田 無		仙 葉 久 美
高学年分科会	新 宿 世 田 谷 渋 谷 板 橋 練 馬 八 王 子	愛 日		篠 原 慎
		松 丘		中 嶋 規 子
		上 原	◎	遠 藤 千 恵
		志 村 第 二		藤 塚 浩 一
		北 原		佐々木 三 貴 子
		第 七	△	田 邊 きよみ
児童会分科会	大 田 葛 飾 調 布 多 摩	山 王	○	齊 藤 美 優 樹
		川 端		石 田 栄 司
		飛 田 給		齊 藤 秀 司
		南 豊 ケ 丘	△	青 山 陽 子

◎総世話人 ○世話人 △副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 丸 節子

目 次

I	研究の全体構想	-----	2
1	研究主題 主題設定の理由		2
2	児童の実態から		3
3	研究構想図		4
II	低学年分科会	-----	6
1	主題設定の理由		6
2	研究内容と実践事例		6
3	実践を通して		10
III	中学年分科会	-----	11
1	主題設定の理由		11
2	研究の視点		11
3	研究内容		12
IV	高学年分科会	-----	16
1	主題設定の理由		16
2	研究の視点		16
3	研究内容		17
4	実践を通して		19
V	児童会分科会	-----	20
1	主題設定の理由		20
2	研究構想図		21
3	研究内容		22
4	実践を通して		23
VI	研究のまとめと今後の課題	-----	24

Ⅰ 研究の全体構想

1 主題設定の理由

研究主題

望ましい集団活動を通して自分たちの学級生活や学校生活を
楽しむ子どもを育てる指導法の工夫

現在、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化している。国際化、情報化、科学技術の進展が進む一方で、子どもたちが人とかかわり合ったり、さまざまな体験をしたりする機会は著しく減少している。また、価値観が多様化し、自己中心的な考え方が広がる中で、他人の考えを受け入れながら、協力して一つのことをやり遂げる経験をするのは困難な状況であると言える。特別活動は、児童が所属するさまざまな集団の中で、なすことによって学ぶ活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を身に付けることをねらいとしている。家族、学校、地域を始めとした社会の中での個の生き方が問われている今、特別活動の教育的意義は大変重要になってくる。

本部会では今年度、目標に近づくために、自分たちの生活を「楽しむ」ことができる児童を育てることに焦点を当てた。ここで言う「楽しむ」とは、児童が「希望や願いをもち、友達とかかわりながら生き生きと活動する」「活動中での喜びやつまずきなどの過程も含めて充実感を味わい、楽しかった、またやろうという次への意欲をもつ」姿をとらえた。そしてこれらの経験をより多く積み重ねることが、よりよい生活を自分たちの手でつくろうとする自主的、実践的な態度を育てると考えた。

《 自分たちの生活を楽しむ子ども 》

自分を発揮する楽しさ

集団の一員としての楽しさ

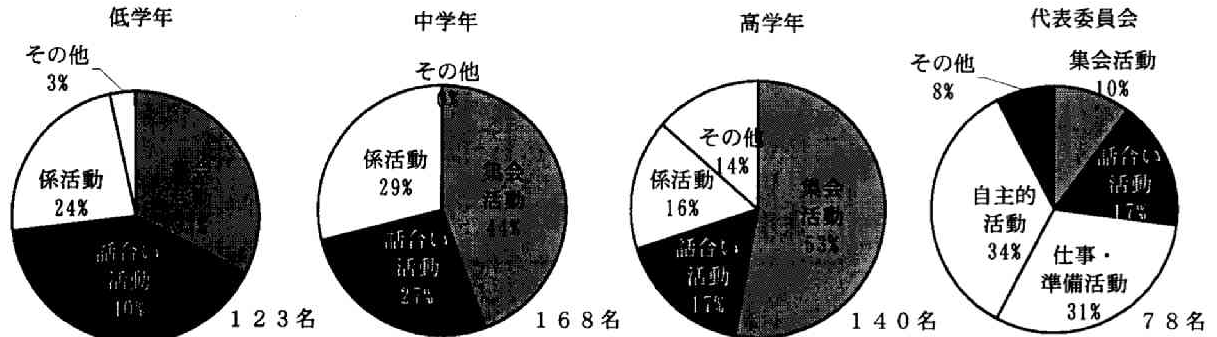
自分たちで活動する楽しさ



2 児童の実態から

研究の方向性を決めるにあたり、児童が学級活動や児童会活動についてどんな意識をもっているか、楽しさをどのように受けとめているかについて研究員の所属校において実態調査を行った。

1 学級活動・代表委員会の活動の中で楽しいと思うのは何をしているときですか？



2 学級活動・代表委員会の活動の中でみんながいてよかったと思うのはどんなときですか。

低学年	中学年	高学年	代表委員
<ul style="list-style-type: none"> ○集会をしているとき ○どうするか決まったとき ○助けてもらったとき ○学級会をするとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○意見がいっぱい出てどうするかが決まるとき ○話が進んだとき ○自分が考えているときに友達が意見を言ってくれたとき ○係の仕事をするとき ○集会をしているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見に賛成してくれたとき ○学級会でいろいろな意見が出たとき ○準備を協力してできたとき ○いろいろなことをやり遂げたとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いをしているとき ○集会をしているとき ○分担した仕事をしているとき ○工夫した自主的な活動をしているとき

3 学級活動・代表委員会の活動の中でわくわくしたりうれしかったりやる気が出たりするときはどんなときですか？

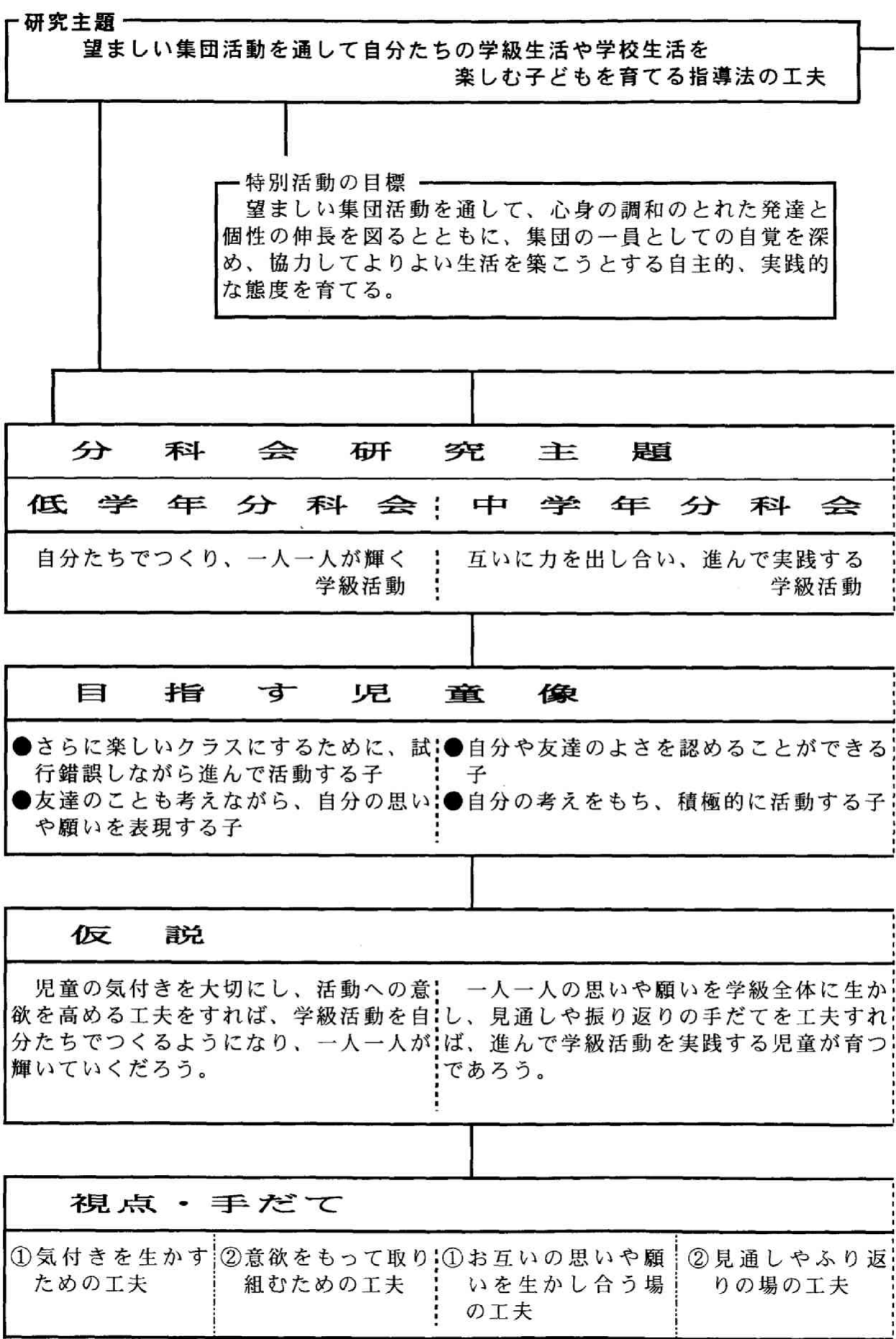
低学年	中学年	高学年	代表委員
<ul style="list-style-type: none"> ○話し合っでどうするかが決まったとき ○決まりそうなとき ○自分の意見を言ったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○やる集会の議題が決まったとき ○自分の意見が通ったとき ○賛成意見を言ってくれるとき ○司会をやるとき ○話し合いが進むとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○やりたい議題や好きな議題が出たとき ○自分の意見がもてていっぱい言えたとき ○自分の意見にみんなが賛成してくれたとき ○意見がまとまってやる事が決まったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見が採用されたとき ○自分の意見が言えたとき ○自分の意見に友達が賛成してくれたとき ○自分の分担、仕事内容が決まったとき

1については、低学年ほど話し合い活動に楽しさを感じていることが分かる。好奇心旺盛で活動への意欲が高い児童が、集団で話し合うという初めての経験に生き生きと取り組んでいる様子がうかがえる。また、学年が進むにつれて友達との人間関係を意識するようになり、それが話し合いにおいては自分の発言に少なからず影響を与えている。集会活動を書いた児童が多いのは、みんなで活動している楽しさを実感する場面が多いからだと考えられる。

2の設問から、児童は活動の中で友達の存在を十分意識していることがわかる。自分の考えに賛同してもらったり、助けてもらったり、集団の中で自分の思いを言えたりしたことに満足感をもっている。3の設問から児童の心をゆり動かすのは、自分の思いが言えたとき、友達に認められたとき、やる事が決まったときに大きく分けられる。このことから、学級活動や代表委員会の活動の中では「自分」「かかわり」「実践への意欲」を通して児童は楽しさを感じていることが分かる。

これらの調査結果と教師の目から見た児童の実態、学年の発達段階を考慮し、各分科会のテーマと目指す児童像及び研究仮説を設定した。

3 研究全体構想図



児童の実態

- ・知識や情報量が多い。
- ・活動意欲がある。
- ・好奇心が旺盛である。
- ・人間関係をうまくつくることのできない児童が増えている。

教師の願い

- ・活動する楽しさを味わってほしい。
- ・自分や友達のよいところに気付き、認め合い高め合っしてほしい。
- ・異学年の友達とも協力して活動してほしい。

社会の背景

- ・価値観の多様化
- ・核家族化、少子化現象
- ・社会的モラルの低下
- ・家庭・地域の教育力の低下
- ・体験を通じた活動の不足
- ・国際化、情報化の進展
- ・環境、福祉問題への関心の高まり
- ・平成14年度からの学校週5日制完全実施

分科会研究主題

高学年分科会：児童会活動分科会

共に活動することのよさに気付き、主体的に取り組む学級活動
 学校の一員としての満足感をもち、主体的に取り組む児童会活動

目指す児童像

- 自分から人とかかわりを持ち、友達の願いを受けとめる子
- 目標に向かって、進んで活動する子
- 学校生活に関心を持ち、より楽しくしようとする子
- 同学年だけでなく異学年とも協力して活動する子

仮説

一人一人のよさを集団の中で生かし、自分たちの力でやりとげる工夫をすれば、共に活動することのよさに気付き、学級活動に主体的に取り組むだろう。
 児童の思いや願いを全校の活動に生かし、児童会活動への関心を高めていけば、学校の一員としての満足感をもち、主体的に取り組む児童会活動となるであろう。

視点・手だて

- ①一人一人のよさを生かす工夫
- ②自分たちの力でやりとげる場の工夫
- ①関心を高める工夫
- ②思いや願いを生かす工夫
- ③意欲的に実践するための工夫

II 低学年分科会

分科会主題

自分たちでつくり、一人一人が輝く学級活動

1 主題設定の理由

特別活動では、自ら課題を見付け、よりよく問題を解決する資質や能力、他人と協調して生きる豊かな人間性を育てることが強く求められている。

そのためには、身近な問題を自分たちの力で解決していく活動を繰り返し行うことが重要になってくる。活動をする中で、互いに知恵を出し合い、試行錯誤しながら新たな方法や考え方を見い出し、互いが高められていくのである。

低学年の児童は、好奇心旺盛で活動意欲が高い。ちょっとした励ましで、自分でやってみたいという意欲が高まり、自分なりの工夫をするようになる。また、集団活動の中で、友達とぶつかり合いながら物事を解決する方法を学んでいく。互いのよさを素直に認め合い、進んで友達を助けたり、教え合ったりする姿も集団活動の中で多く見られる。「なすことによって学ぶ」学級活動においては、このような低学年の児童のよさを十分発揮させることにより、集団活動が充実し、一人一人の望ましい成長につながっていく。

本分科会では、学級活動を「自分たちでつくる」こと、すなわち、試行錯誤をしながら、思いや願いを自分たちの力で実現していくことを大切にしたいと考えた。学級活動を「自分たちでつくる」中で、子どもたちは触れ合いを深め、互いを認め合う関係をつくっていくだろう。その結果、一人一人に居場所があり、安心して自分の思いや願いを表現することができる集団、つまり「一人一人が輝く」ことができる集団になっていくと考えた。

そこで、分科会主題を「自分たちでつくり、一人一人が輝く学級活動」と設定し、「さらに楽しいクラスにするために、試行錯誤しながら進んで活動する子」「友達のことも考えながら、自分の思いや願いを表現する子」の育成を目指した。

2 研究内容と実践事例

研究主題に迫るために、次の2つの視点について手だてを立て実践した。

視点1 気づきを生かすための工夫

視点2 意欲を持って取り組むための工夫

< 視点1 気づきを生かすための工夫 >

手だて(1) 気づきカードの工夫

○ “気づきカード”とは、

児童の発言(つぶやき)や態度に次のことが表れていたときに、教師がそれを褒め、その発言(態度)をカードに示したもの。

- ・学級会(話し合い活動、集会の活動など)の運営に役立つ気づき
- ・特別活動の目標に迫る気づき(友達に対する思いやり、自主性など)

★気付きカードのねらい

①自主性を育てる

自分たちの力で運営できる“一人立ちの学級会”に向け、活動で出た気付きをカード化し、具体的めあて（よりどころ）として意識付けたり、学習意欲を刺激したりする。

②自己評価・相互評価の力を育てる

気付きカードを、自分や学級集団の変容（成長）を振り返る手掛かりとして使う。

★気付きカードの作り方

・児童が活動の中で整理・活用しやすいように、席から読める字の大きさに一つの気付きを一枚のカードに書く。

・カードに教師が記入すること

〈気付き・話合いの日にち・発表した児童の名前・カードの通し番号〉

・気付きには以下のような書き方がある。

○児童の言葉、態度、行動をそのままカードに書く

○児童の言葉、態度、行動を子ども自身に問い掛けふり返らせ、気付いた言葉をカードに書く。

【実践例】

(1) 掲示のタイミング

①自分たちでつくる学級活動のよりどころとして、いつも目に付くように教室に常に掲示した。

②活動が終わると同時に、カードを作り、児童に確認の上、掲示した。

③その時間に身に付けてほしい気付きのカードを活動の最初の「先生の話」で示した。

（例）「今日はこのカードに書いてある〇〇ができるといいね。」

(2) 振り返り

①教師の終末の助言で、褒めたり、よくできているカードに花丸をつけたりした。

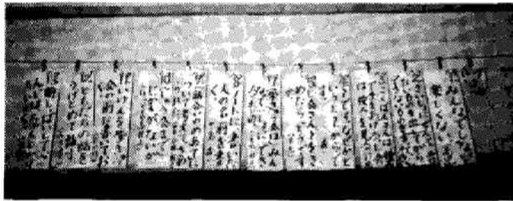
②全員ができるようになったと認めるカードは、掲示場所を変えたり、まとめたりした。（進化・卒業）→残されたカードを活用しようという意識が高まった。

(3) 掲示場所

①児童が説明や整理などするとき、動かしたり、貼り直したりできるように、児童の手の届くところに掲示した

②定着していないカードは目立つ前方に掲示し、逆に定着したカードは後方に掲示したりまとめたりした。（箱に入れる。重ねる。）

〈進化する気付きカード〉



〈①ピチュー〉

①児童の気付き（ピチュー）

②ほとんどの児童に定着してきた気付き（ピカチュー）

③全員に定着した気付き（ライチュー）



〈②ピカチュー〉



〈③ライチュー〉

手だて（2）適切な助言

○“適切な助言”とは、

児童の発言・表情・態度などを含め、活動の詳細な記録や振り返りカードを基に、次のようなことを取り上げて認め、褒める。

・会の進め方や内容に関すること

・思いやりや優しさの表れた発言や態度に関すること

【実践例】

・活動の始めに、その日の話合いの時間を確認した。また、児童と話合いをする時間を約束した。（時間を確保する）

（例）「今日の話合いは〇時〇分までです。」

・活動中は、教師はできるだけ口をはさまないようにした。迷っても失敗しそうになっても試行錯誤することを大切に、子どもたちが自力解決できるように見守った。

ただし、危険なこと、人権に関わること、施設を使うことなど、児童に任せることができない条件（学習指導要領解説 P, 30 参照）については、事前に教師が指導したり、状況に応じて助言したりした。

・活動後は、児童のよさや頑張りを認めることを中心に助言した。教師が、児童のよさや頑張りをみんなに紹介することによって、児童は認められ、賞賛されたことを喜んで、次の活動に生かしていった。その他（課題）は、指摘せず、できるようになったときに褒めるように

心掛けた。

- ・活動が混乱したとき、児童に「どこに問題があるのか、どれくらい気付いているのか」などを問い掛けたり、整理させたりした。それを基に子どもたちの課題を把握し、次からの助言に生かした。

手だて（3）振り返り

- 自分たちの活動を振り返る時間を確保することによって、振り返ったことを次の活動に生かせると考えた。

【実践例】

- ・「よかったさがし」
お互いのよいところを見つけ、認められるようになった。
- ・振り返りカード
話し合いでは発言できなかった児童も、カードを翌日の朝の会で読み上げられたり、教師からの書き込みで認められたり励まされたりしたことにより、自信をもつことができた。振り返りカードは、クラスの実態やねらいにに応じて、観点を設けて書かせたり、自由記述にしたりした。

学びゆう会 ふりかえりカード

10月24日(金) 2年2組

①きょう 話し合ったこと・きまったこと
何をやるかきめた

②きょう、いけんを言いましたか? はい (いいえ)
(きょう)
きょうがおもしろかった。
ゆかさんが言ったことと同じこともあった。

③きょうのピカリ (人・こと(りゆうも))
〇〇さんがしがいをかんだ
ことがいいと思います。

④かんそう (思ったことなんでも)
どっちもやることになればいいな。

きょうに認められたよかったです。
〇〇さんといつもきょうのよさを
えがいてあげたいです。

たのしかったです

みんながくろくしたお話をきいて
よかったです

しがいもかんだしきょうほ
んとうによかったです。

← 2年 ↑ 1年

手だて（4）学級活動に生かせる経験を多くもてるようにする。

- 話し合いの仕方、集会の進め方などの基礎・基本は、特別活動の時間はもちろん、各教科、道徳、朝の会・帰りの会など、教育活動全体を通じて身に付けさせ、学級活動では児童がそれぞれの場で身に付けた力が実践的に働き、問題を解決していくと考えた。

【実践例】各教科、道徳、朝の会・帰りの会では、次のような経験を多くもてるよう工夫した。

- ・国語…聞く、話す能力を身に付ける。
話す人の方を見て聞く。
分からないことは質問する。
友達の意見と比べながら言う。(〇〇さんと似ていて、違って)
友達の意見に付け足す、助ける。(〇〇さんに付け足して、まとめると)
「はい、～です。」などの話型
- ・道徳…* 道徳的心情や判断力、道徳実践力を身に付ける。 → 集団活動につながる。
* 自分の考えをもち、発表する。
* 友達の考えと比べながら聞く。
- ・算数…* 問題解決の方法をみんなで考える。
- ・生活…* 思いや願いを生かしながら教師の司会のもと、話し合い、実行していく。話し合いの中で様々な解決方法を知る。
・ 近くの友達と相談する。
・ 似ているものでまとめる。
・ 順番にやっていく。 など
* パーティーなどで集会づくりの経験をする。
- ・朝の会・帰りの会…
* 司会を経験する。係が、クラスのみんを楽しませる小集会を計画し、実行する。

* スピーチで、聞く・話す・質問するなどの力を身に付ける。
* よかったさがし(今日のよかったことを発表する)で相互評価をする。
→ 振り返りの相互評価につながる経験



< 視点 2 意欲をもって取り組むための工夫 >

手だて (1) 適切な助言

- 児童の発言、表情、態度などを含め、話合いの詳細な記録をとり、それを基に児童のよいところを取り上げて認め、褒めていった。褒めた内容はすぐに気付きカードに取り上げた。この積み重ねにより、気付きカードの内容を真似しながら、話合いの仕方を身に付けていく児童がでてきた。

【実践例】

- ・事前に、司会グループの相談に立ち会い、活動のめあてが達成できるように、助言したり、質問したりした。
- ・事後は、活動の様子や振り返りカードを基に、全体や個を褒めたり励ましたりした。

手だて (2) 話合い活動の時間設定

- 話合い活動の時間を15分～20分にするにより、集中が続くようになると考えた。また、児童の活動の時間を保障し、毎週継続して取り組むことにより、自分たちでやろうとする意識が高まる。児童が自信をもって自主的・自発的に話合いができるようになってきたら、徐々に話合いの時間を長くしていく。

【実践例】

- ・1年生の入門期、話合い活動の時間を15分～20分とし、週2回行うことも可能である。これにより、集中して話合いができ、前回の続きが思い出しやすくなる。また、活動意欲も持続すると考えた。このように、学級会を短い時間で繰り返し経験することにより、話合いに慣れて、自分たちで活動する姿勢が身に付いていった。

手だて (3) 係の活動を活発にする

- 自発的な児童の発想をできるだけ生かし、係の活動を活発にすることによって、児童が工夫をして計画・実行する力と自信が身に付くと考えた。

【実践例】

- ・1年生の始めは一人一役の当番から始まった係だが、2年生になり係と当番との違いについて話した。その結果、当番的な仕事はほとんどなくなり、仕事の内容の工夫が見られるようになった。児童の考えから生まれた学級会係が輪番制の司会グループに呼びかけて、週1回自主的に学級活動を運営するための事前の会議を行うようになった。
- ・朝・帰りの会での係からのお知らせからも議題が生まれるようになった。
- ・ゲーム係が中心になって行う小集会の経験も、学級集会の話合いや準備に活かされてきた。



< 係の作ったポスト >



< 学級会係の活躍 >

手だて (4) 朝の会、帰りの会の活用

学級活動を円滑に進める力を育てるために、効果的に朝・帰りの会を活用したいと考えた。

【実践例】

- ・朝・帰りの会では、全員に司会・発表の経験を積ませ、自信をつけさせることができた。
- ・前日の学級活動や帰りの会の振り返りで、よかった点を朝の会の「先生の話」の中で取り上げ、児童の励みにすることができた。

手だて（５）集会の活動の積み重ね

○学級や学校で集会活動を数多く経験し、楽しさを味わうことによって、さらに楽しい集会をみんなで作りたいと考えるようになる。

【実践例】

- ・ 1年生の始めに教師が中心で行ったゲーム、全校での集会活動、縦割り班での遊びや行事などを楽しみにし、はりきって参加していた児童が、やがて自分たちの力で集会を行いたいというようになった。先行経験を積むことの大切さを感じた。
- ・ 自分たちの集会活動の回数を重ねる中で、必要な係と決め方、準備などに慣れることができた。
- ・ 集会後に振り返りを行った。紙に書いたときには、次の集会の前に読み聞かせることにより、振り返りを次の集会活動に生かすことができた。

3 実践を通して

《視点1 気づきを生かすための工夫》について

- ・ 児童の発言や取り組む姿勢からたくさんの気づきカードが生まれた。その気づきカードを活動に生かす場面も多く見られた。
- ・ 気づきカードを掲示したことにより、話合いのルールが多くの児童に身に付き、自主的に話合いを進めることができるようになってきた。
- ・ 学級会の進め方を、必要に応じて自分たちで考えたことによって、より児童の実態に合ったクラス独自の進め方が生まれた。
- ・ 各教科の学習を大切に、様々な学習を積み重ねたことが、学級活動に生かされていった。特に、国語の「聞く・話す」の学習の大切さを感じた。
- ・ 振り返りで気付いたことを全体や個別に返すことによって、次の活動に効果的に生かされることがあった。

《視点2 意欲をもって取り組むための工夫》について

- ・ 振り返りの時間を取ったことにより、活動の中で教師や友達に認められることが励みとなり、意欲的に発言したり一生懸命活動したりする児童が見られた。
- ・ 係の活動では、少人数で活動することにより、自主性と責任感が生まれ、創意工夫の楽しさも味わえた。
- ・ 朝の会、帰りの会での司会・発表の経験、集会の積み重ねにより、自信をもって活動に取り組めた。
- ・ 学級生活全体を通して、一人一人の育ちや実態を把握することが、適切な助言や指導につながる。どのタイミングでどのような声掛けをするか、一人一人の気づきや個を生かすための適切な助言についてさらに研究を深めたい。

III 中学年分科会

分科会主題

互いに力を出し合い進んで実践する学級活動

1 主題設定の理由

中学年の児童は、活動的で、興味・関心が広がるとともに何事も自分たちでしようとする。また、友達との結びつきが強くなり、集団としての活動が活発になる反面、自分が仲間からどのように評価されているか気にするようにもなってくる。

中学年分科会の児童の実態を見ると、気の合う友達との間では自分の思いが出せるが、学級全体の場では出せない面がある。また、かかわり合う活動や、自分たちで考え解決していくという活動の経験が少なく、進め方にとまどう面などが多く見られた。そこで、友達とのかかわりを広げ互いの思いや願いを認めていくこと、自分たちの力で試行錯誤しながら問題を解決していく経験をする必要があると考えた。これらの経験を積み重ねることによって、中学年の児童のよさを生かした学級活動になっていくと考えたからである。

中学年分科会では、互いの思いや願いを知り、認め合い、生かし合う活動を通して、「自分や友達のよさを認めることができる子」「自分の考えを持ち、積極的に活動する子」を育てたいと考え、分科会主題「互いに力を出し合い進んで実践する学級活動」を設定した。

2 研究の視点

互いに力を出し合うためには、一人一人が学級活動に対する思いや願いを持ち、表現できるようにする必要がある。これらを学級全体に生かすことによって、児童は学級への所属意識を高め、意欲を向上させる。また、進んで活動するためには、どのように話し合いを進めるか、係の活動計画を立てたりするかなどの活動への見通しが大切である。そして、活動後の振り返りは次のよりよい活動へつなげるために重要である。そこで研究の視点を次のように設定した。

仮説検証の視点	
視点1 児童がお互いの思いや願いを生かし合う場の工夫をする (1)「学級会カード」の活用 児童は議題に対する自分の思いや考えを事前に記入する。あらかじめ意見をもって話し合いに臨むことで、教師は、児童の思いや願いを把握し、個に合った指導に役立てる。 ○発言への意欲につながる励まし ○考えがもてたことへの賞賛	視点2 児童が活動への見通しをもち、活動を振り返る場の工夫をする (1)「学級活動カレンダー」の掲示 計画委員会や係の活動の予定を自分たちで書き入れる。 (2)計画委員会への指導 計画委員会を設置し、活動する時間と場を確保する。 ・議題選び ・話し合いの柱立て

<p>○発言しなくてもきちんと考えていたことを教師が紹介する。</p> <p>(2)「学級活動コーナー」の設置 児童の考えを掲示し、互いの思いや願いに触れられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いたいことを書いた議題カード ・係からのお願い <p>(3) 小集団の活用 係の活動において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の時間、場所を保障する。 ・活動の内容を認めるような助言をする <p>話し合い活動において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか手を挙げて発言できない児童が自分の思いをだせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの役割分担 など <p>(3) 振り返りの工夫と生かし方 「振り返りカード」で、自己評価や相互評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを生かす場をつくる。 <p>→朝の会、帰りの会、話し合いの終末、学級会新聞</p>
---	--

3 研究内容

視点1 児童が互いの思いや願いを生かし合う場の工夫をする

(1)「学級会カード」を活用した実践事例

児童の話し合い活動の実態により、カードを活用していくことが必要であると考えた。教師が事前に学級会カードを集めて意見を把握し、児童が発言への意欲がもてるような言葉かけをしたり、「学級会カード」にコメントを入れたりする。

		決まったこと 24日にうづすもう大会 31日にお茶会開催	10分 6 話し合うこと まねを作る。	10分 5 4 3 2 ① ① 何をするか決める。 ② やる人、やる人を決める。 ③ 決める。	5分 ① 話し合うこと ② 話し合うこと ③ 話し合うこと	議題 まよのめあて 朝ニコニコクラブでなにをやるか決めよう。	第11回 学級活動 10月23日 火曜日 5時間目 学級会カード 朝ニコニコクラブでなにをやるか決めよう。
--	--	------------------------------------	---------------------------	---	--	--------------------------------------	--

① 話し合いの場を設けて、話し合うこと。

② 話し合いの場を設けて、話し合うこと。

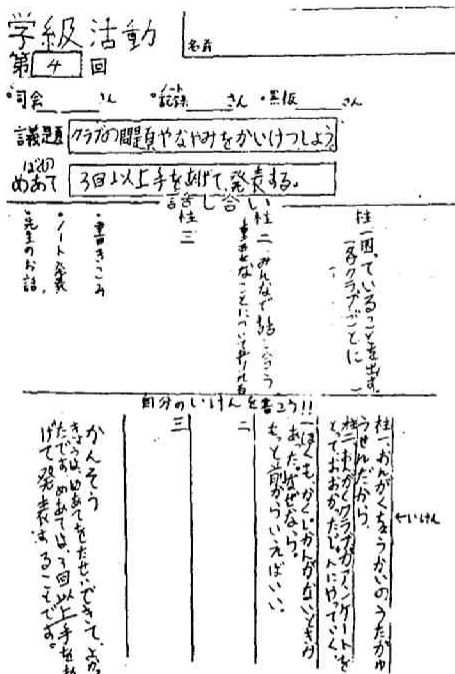
③ 話し合いの場を設けて、話し合うこと。

学級会カード

今日はお話の本をやるか
 せひみんなにおしえてあげよう

名前

つぎは、もう、お茶会、お茶会、お茶会
 意見がたせるといいですね
 ガンバシム



「学級会カード」には、柱ごとに個人の意見を記入するようにした。これを使って話し合いを進めていくことにより、児童は、「話し合う内容が事前にわかっているよ。」「話し合いの時間が書かれていると、話しやすい。」など、話し合いに対して見通しをもつことができるようになった。

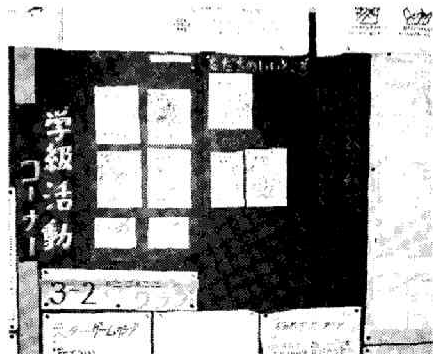
司会グループさんが柱を立ててくれたから、話し合うことがわかるよ

一生懸命考えてきたから、今日は考えが言えそうだ。

▼学級活動コーナー

(2) 「学級活動のコーナー」の設置をした実践事例

話し合い活動の終末に行う「活動の振り返り」において、児童が書いた「気付き」や「思い」、「友達のよさ」などを学級活動コーナーに掲示する。また、「学級活動ニュース」等のプリントを配布することで、互いの思いや願いに触れるようにする。さらに、そこから次の話し合いの議題や題材を拾い上げ、生かしていくようにする。



児童が書いた『思ったこと』を掲示したり、プリントなどを配布したりすることにより、児童にとって次の話し合い活動における行動モデルとなり、児童が話し合いをしていく上で、さらに気付きを生かした話し合いへと積み上げていくことができた。

(3) 小集団の活用についての実践事例

係の活動は、児童一人一人が学級集団の一員として役割を受けもち、存在感や自己実現の喜び、集団への貢献の充足感を味わえる大事な活動である。



自分の得意なことや、好きなことを生かし、やってみたいことで集まった小集団なので、自分の思いや願いをより出しやすい場であると思われる。そこで、次のような工夫を試みた。

- 学級活動の時間だけでなく、朝の会、帰りの会を使って連絡をしたり、係ごとに給食を食べながら相談する日を設けたりした。

▲メッセージカードを入れる児童

- 係の掲示物（新聞やお知らせ）を読んだ人がサインをしたり、活動に対するメッセージカードを書いて係のコーナーに入れたり、口頭で感想を述べたりして児童の交流を図った。

その結果、「わくわく本屋さん」「楽しい新聞」など係の名前を工夫したり、学級活動カレンダーにすすんで活動日を記入したりするなど、自分の係の活動だけでなく、友達の係の活動も楽しみにする児童が増えてきた。話し合い活動でも、なかなか手を挙げて発言できない児童が思いを出しやすくなるため、隣同士や班ごとの相談タイムを設け、全員が内容を発表する機会とした。

視点2 活動への見通しをもち、活動を振り返る場の工夫をする。

(1) 学級活動カレンダー（週予定表）の活用

活動の見通しがもてるように週予定表を活用した。書き込む内容は、

* 計画委員会の活動予定 * 係の活動予定 * 他の係へのメッセージ

週単位で計画を立て、振り返りをするにより、活動内容を週ごとに修正することができた。朝の会の「係からの連絡」でその日の活動をみんなに知らせ、一人一人が自分の週予定表に書き込んでいくようにすることにより、記入するための時間をあえて設けなくても短時間で記入することができた。また、朝の時間、休み時間、放課後など、どの時間帯で何の活動をするかがはっきりし、常に活動を意識することができるようになった。さらに、他の係へのメッセージ欄には、企画への感想や活動へのアドバイスを書くようにした。

週末に教師が目を通してコメントを入れ、メッセージは学級活動ニュースに載せ児童に返した。また、教室内の学級活動コーナーには全体用として拡大コピーした週予定表を掲示し各係の担当者が書き込み、目に入るようにした。これらのことにより、学級活動にかかわることだけでなく、1週間の学習や行事等の見通しをもつことができ、生活全般において見通しをもって生活できるようになった。

10月22日～10月26日		計画委員会の活動予定 (第2) (カードは図書館で)	
日	月 (22 日)	(月)をたいいあつめあかんせい	
日直		きたいなわとび大会をしようかんせい	
行事予定	代表委員会	おまーなにをあるか。みんなのよこ(後・学)	
朝の時間	児童集会	木三。2号所 (20分休み・お昼休みは活動)	
		木三。ホール	
午前	運動 けんあひバレー	係の活動予定 10.30日 月かんマ>がワールド	
前半	体育とびはこー)	は。こー	
20分	スポーツクラブ	係の活動予定	
休み	アンケートかいび	(い)4日はくじやるのわすれ)	
		マ>かにつくる	
午前	算数 ぶんけいのたえあひ	係の活動予定	
後半	社会のうきくもつー)	(い)かりがみオクシオン	
給食	クラブ給食		
昼休み		メッセージ	
		しんぶんクラブさんへ	
午後	運動部 けんあひ心	しんぶんよんで楽しかったです。	
	代表委員会	ありがとう。	
放課後		メッセージおりがみクラブのオクシオン、わたしは、もちろてないうけあつごい物を作てさてくれてありがとう。	
		手びかめていあひあつごい。	



▲学級活動カレンダー週予定表

(2) 計画委員会の指導の実践事例

話し合い活動の中で、『よい発言があった』『予定の議題について決めることができた』などの評価も大切であるが、話し合い活動で決められたことが、どのように実践されたかまで見届けることも重要である。そのために、計画委員会で児童が何をするか明確にし、

＜計画→実践→振り返り＞のサイクルを計画委員会の中でも、経験できるように考えた。計画委員会が見通しをもち、話し合いを進めると、意見の出し方が明確になり、話し合い活動が充実すると考えた。そこで、計画委員会を輪番制にし児童全員が経験できるようにした。朝の会や帰りの会や休み時間など短い時間を利用し、1週間に次のような活動をした。

- ① 議題集め
- ② 議題選び
- ③ 話し合いの柱立て
- ④ 準備
- ⑤ 話し合いの役割分担
- ⑥ 計画委員会の引継ぎ



・うーん。これはみんなで話し
合った方がいいね。
・みんな決めていいことだね。
・ながよく楽しくなることだね。
・みんなに関係していることだ

このサイクルの中では、特に議題選びと話し合いの柱立てに指導のポイントをおいた。このサイクルに慣れてくると、自主的に計画委員会を開き、困ったとき教師に相談にくるようになった。また、計画委員会の子どもの頑張りを他の子どもたちも素直に認めるようになり、自分が計画委員会になっても安心して活動していた。今後は、児童がさらに自主的自発的に計画委員会をもてるように、指導の工夫をしていきたい。

(3) 振り返り

自分の思いや願いを学級に伝えた後、自分の活動や友だちとのかかわりを振り返る機会をもたせる手だてをとった。

○「振り返りカード」の活用

終末、学級会カードに書いたことを基に、自分の意見を発表できたか、また、相手の意見を聞き、それも含めて考えられたかどうか、振り返りをするようにした。そして、評価項目を絞ったカードに自己評価を記入させた。

1学期に使っていたカードを現行のカードにしたところ、相手の意見を聞こうとする態度がみられるようになった。今後は振り返りの内容を児童の成長に合わせて検討する。

学級会振り返りカード

友だちのよいところを	これから自分のすること	決まったことにやるべきこと	進んで意見を発表すること	友だちの意見を聞くこと	友だちの意見をもちつて自分の意見を	言いたいことを	よくできたこと	学級会をふりかえって印をつけよう。
をわかつた。	をわかつた。	をわかつた。	をわかつた。	をわかつた。	をわかつた。	をわかつた。	をわかつた。	
○	○	◎	△	○	○	10	24	

○ 係の活動の振り返り

▲ 振り返りカード

自分たちの係の活動を学級に知らせる新聞を発行する。その新聞を見ることにより、他の係の児童が自分たちの活動を振り返り、係の活動に生かすことができた。また、学期当初計画していた係の活動内容を、学期途中でも修正し、掲示してある係のカードに重ねて貼っていくことが、一つの係が行うと他の係にも広がっていった。

○ 発表の場の機会の設定

朝の会や帰りの会を利用して、他の活動に対してよかったことを発表させる機会を設けたことは、書くことが苦手な児童に対しても有効であった。

IV 高学年分科会

分科会主題

共に活動することのよさに気づき、主体的に取り組む学級活動

1 主題設定の理由

高学年の児童の多くは、5年生での学級編成替えを経験し、新しい集団の中で自分の居場所を探し、今までとは違う人間関係を作り出そうと努力している。みんなといっしょに何かをやり遂げたり、創りだしたり、自分が満足できる楽しいことはないかと、心待ちにしている。与えられた課題を実践していく中で、満足感を味わい、楽しさを実感することは、かなりできるようになってきているが、その楽しさを自分たちの力で手に入れようとする活動はなかなか生まれてこない。集団がまだ、児童にとって、安心できる準拠集団になっていないことや、児童の集団への所属意識の低さ、自治的な活動の体験不足などが原因として考えられる。

児童が人とかかわる中で「みんなで活動するのは楽しい」という体験をし、「みんながいてよかった」「みんなの中に自分もいてよかった」などの意識を持てるようにしていくことが必要である。さらに、自分たちの問題を見つけ、実際にそれを解決していくまでの一連の活動を積み重ねていくことにより、主体的に活動し、自分たちの学級や学校生活を楽しむことができると考えた。

そこで、本分科会では、「自分から人とかかわりをもち、友達の願いを受けとめる子」、「共同の目標に向かって、進んで活動する子」を目指す児童像とし、研究主題を「共に活動することのよさに気づき、主体的に取り組む学級活動」とした。

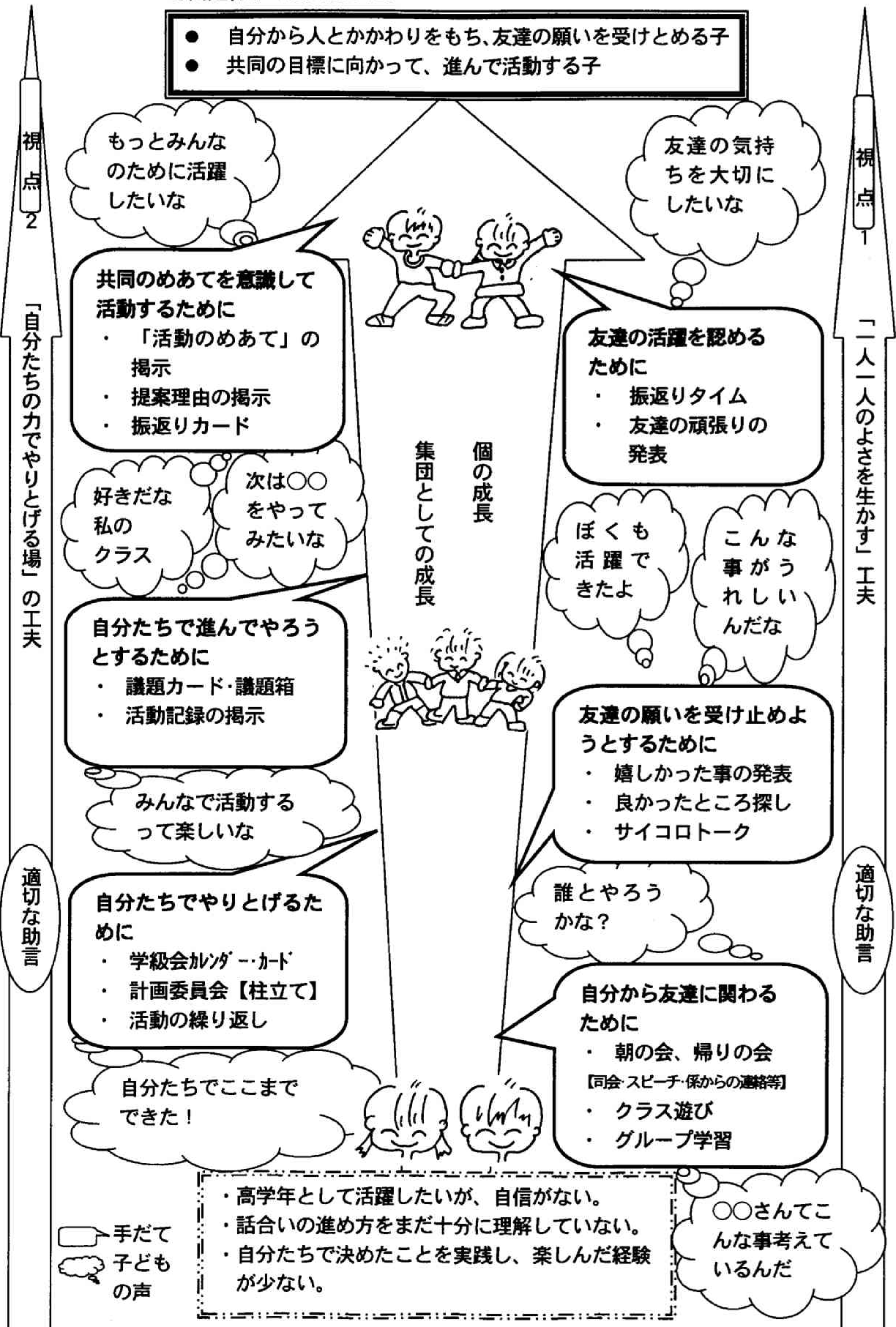
2 研究の視点

目指す児童像に迫るために、以下の二つの視点を立て、手立てを試みた。

視 点	手 立 て
視点1 「一人一人のよさを生かす」工夫 ・自分からかかわる ・受けとめる ・認める	・友達の活躍を認める場の設定 ア ・全員が活躍できる場の設定 イ ・自分や友達を見つめ直す活動を取り入れる ウ (エンカウンター的手法・嬉しかったことや頑張ったことの発表・自分のめあてをたてる等)
視点2 「自分たちの力でやりとげる場」の工夫 ・やりとげる ・進んでやる ・めあてを意識する	・事前指導・準備の工夫 ア [学級会カード・学級会カレンダー・計画委員会] [<u>適切な、議題・話し合いのめあて・柱立て</u>] ・学級活動の記録の掲示 イ ・活動のめあて・提案理由の掲示 ウ ・適切な助言 エ ・活動後の相互評価 (振り返りカード等) オ

3 研究内容

目指す児童像に向けて、手だてとその具体的な活動例を、学級集団や個の成長と関連付けて図式化した。



実践事例

「物語を演じよう集会をしよう」(5年)

高学年分科会では、児童が自主的・自発的に学級活動に取り組むために、

議題の決定→計画→話し合い→準備→実践→振り返り→次の活動

という一連のサイクルを何度も繰り返すことが重要なことだと考えた。一連の活動全体のためを共有することで、目的意識をはっきりともたせ、活動の意欲につなげた。



計 画

10/16 中休み

- ・話し合いのための打ち合わせを司会グループと行う（視点2-ア）
- ・司会グループは輪番制（視点1-イ）
- ・提案者も打ち合わせに参加する

役割分担をしよう。
司会が2人、黒板書記も2人、ノート書記は1人だね。

話し合いの柱を考えよう。
①方法、②グループ数、
③メンバーの決め方。
他にはないかな。

司会グループ事前確認カード（話し合い）

5年1組 氏名	議題名 物語を演じるよう集会の話し合い
係分担	司会 (K.O) 副司会 (T.S) 黒板記録 (K.S) 黒板記録 (Y.F) ノート記録 (K.T)
提案理由	みんなにもっと本を読んでほしいから めあて げきを演じることで、読書の楽しさを深める
感想発表でいいこと	
流れ	
議題の確認 (Nさん)	
提案理由の確認	
話し合いのめあての確認 みんなで協力して、スムーズに決めよう	
話し合い	
・決めることの確認 方法、グループ数、メンバー	
・決め方の確認 生活班で番号を決める	
決まったことの発表	
感想発表 (副司会・クラスのみんな)	
先生より 話し合いのふりかえりカード記入	

話 合 い

10/16 3校時

- ・司会グループの紹介、議題・提案理由、めあての確認の後、児童中心に進める
- ・話し合い後のふりかえりタイムや終末の助言で活躍を認め合う場を設定する。（視点1-ア 視点2-エ）

活動のめあて：物語の場面を演じることで読書の楽しさをもっと知ろう。
決定したこと：各グループで物語の名場面を劇で発表する。その後に各自が本の紹介をする。

今日は、今までよりもスムーズに話し合いが、すすめられたね。みんなが協力してくれたからだね。

準 備

実践日 10/25 直前まで

- ・集会までの間、グループごとに時間を見つけて準備をする（視点1-イ 視点2-ア）

1人1人が役割分担をして協力しよう。

4 実践を通して

- ・自分たちで活動をやりとげる経験をする中で、「みんなでやることの楽しさ」を感じてきた。
- ・活動後の振り返りを共有する中で、友達が自分のことを認めていることに気づき、自信を持って活動するようになってきた。
- ・共同のめあて（みんなでひとつの・活動全体の）を持って活動していくと、より大きな達成感を味わい、学級集団としての高まりも感じられるようになってきた。
- ・繰り返し活動する中で、やり方を学び、楽しさを知り、次への意欲をもてるようになってきた。

V 児童会活動分科会

分科会主題

学校の一員としての満足感もち、主体的に取り組む児童会活動

1 主題設定の理由

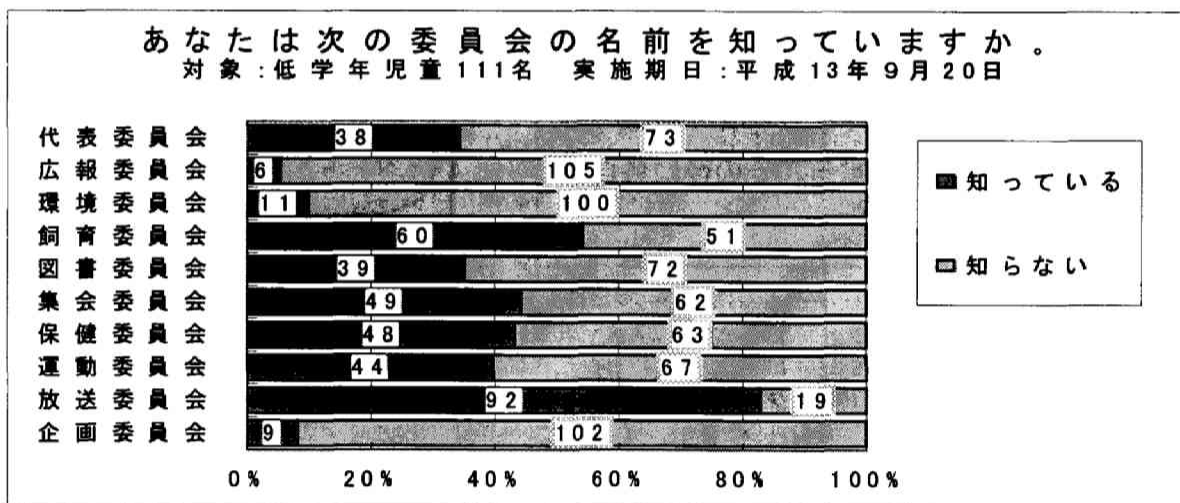
児童会活動のねらいは、「児童が、自分たちの学校生活を向上させようとする意図の下に、学校生活に関する諸問題を解決する活動や校内の自分たちの仕事を分担処理する活動を自発的、自治的に行うことによって、自主性と社会性を養い、個性の伸長を図る」ことである。

しかし、実際には児童の学校生活の諸問題に対する問題意識や児童会活動への関心が高いとは言えず、児童会活動を行う上でも、企画、運営する側に指示待ちな傾向が見られる。

意識調査の結果からも低学年児童は、校内にどのような委員会があり、どのような活動をしているかについてほとんど知らないということが分かった。それぞれの委員会が学校生活を豊かにするために日々活動していることを考えると残念な結果である。また、中・高学年の児童でも各委員会の活動内容について正確に理解している者は少なく、特に代表委員会の活動内容については、学校の諸問題の解決を行うものであるという意識が低いことも分かった。

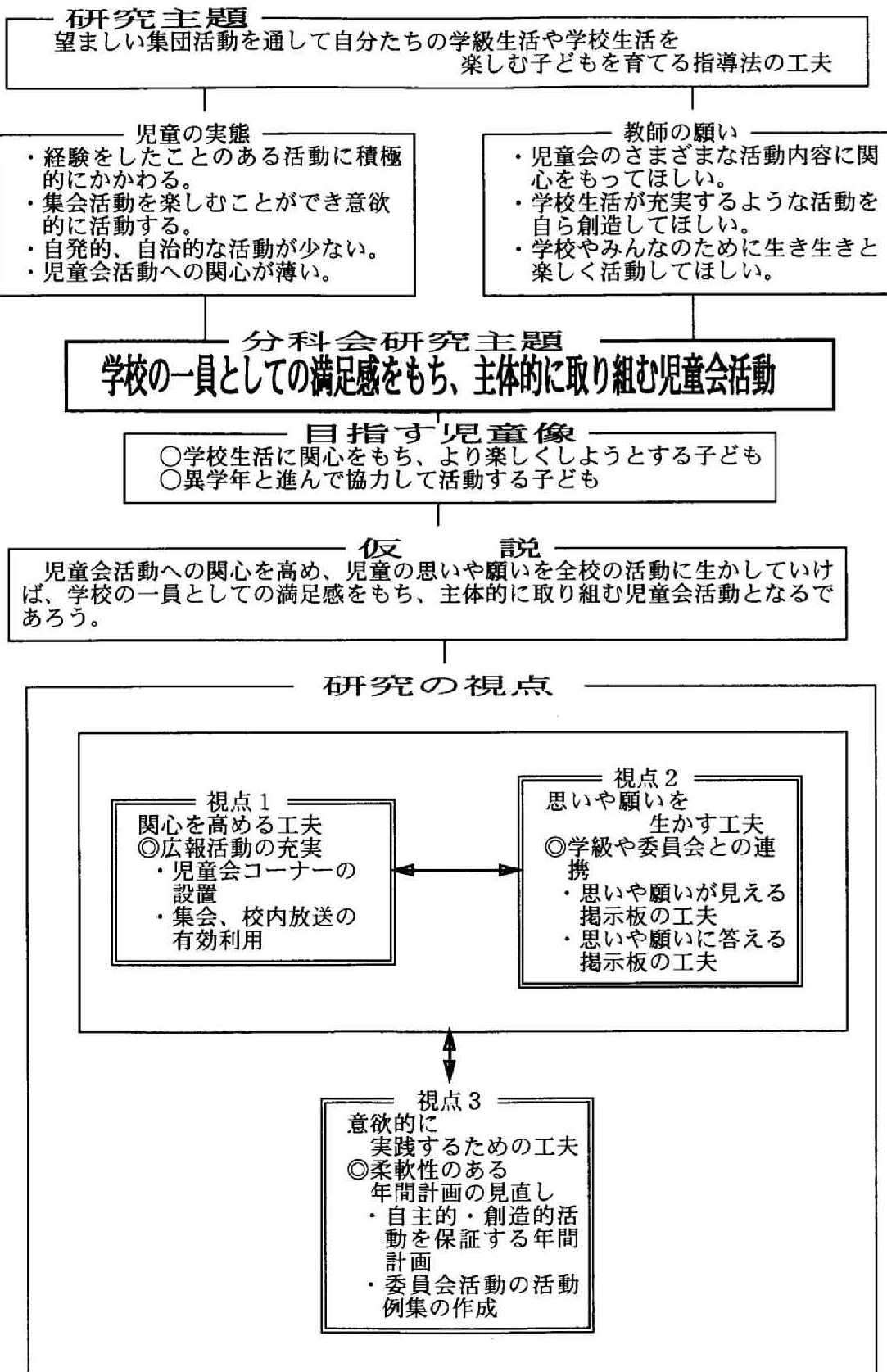
<意識調査の結果から>

研究員A校の場合



私たちは、こうした実態から、まず児童会活動への関心を高めることが必要だと考えた。そして、自分たちの思いや願いが全校の活動の中に生かされた経験や、自分たちの力で実践したという経験を繰り返すことによって所属感が生まれ、活動への満足感が大きくなると考えた。児童が学校の一員としての満足感を十分味わうことができるようになれば、より充実した児童会活動をするための意識が高まっていくだろう。それは同時に、学校生活をより豊かなものにしていこうとする意欲や主体的な児童会活動への姿勢を生み出すことになる。そこで、本分科会では、主題を「学校の一員としての満足感もち、主体的に取り組む児童会活動」と設定し、「学校生活に関心もち、より楽しくしようとする子ども」「異学年と進んで協力して活動する子ども」を目指す児童像とした。

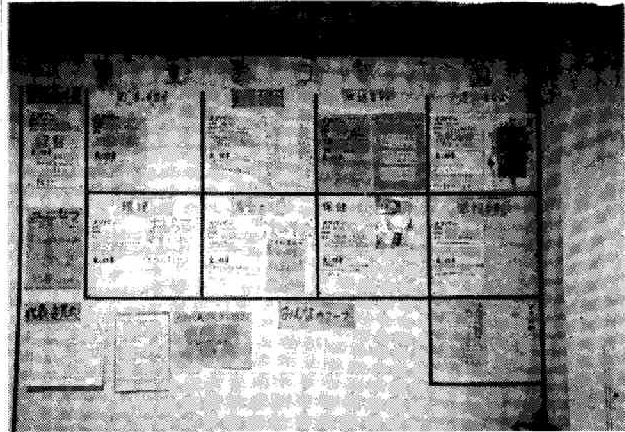
2 研究構想図



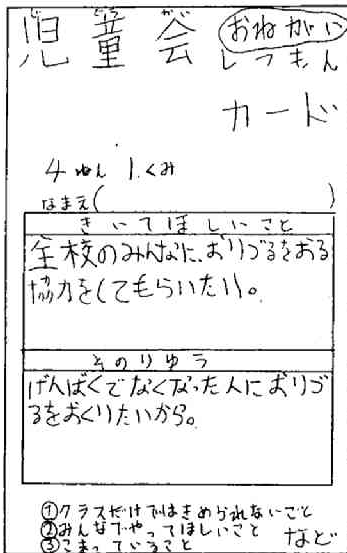
3 研究内容

視点1 **関心を高める工夫**…児童会コーナーの設置

- ・「代表委員会コーナー」「委員会コーナー」「みんなのコーナー」を設置する。代表委員会や委員会からのお知らせ、活動内容の紹介、個人や学級から全校に知らせたいことが掲示できるようにする。
- ・全校児童の目に触れる機会が多くなる場所に設置する。
- ・代表委員会や委員会の掲示物には、漢字に必ず読み仮名を付けて、低学年にも読めるようにする。



視点2 **願いや思いを生かす工夫**…みんなのコーナーの設置



- ・みんなのコーナーでは、代表委員会で話し合っしてほしいことを誰でも自由に書いて貼れるように紙を用意しておく。
- ・寄せられたものをもとに議題を設定したり各委員会と連携をとったりして、全校児童の思いや願いに対応していく。どのように生かしていくかは、「ありがとうカード」を作成して本人に伝える。
- ・運動会を盛り上げる工夫など、学校行事の支援的な活動は、話し合いを効率よく進めるために、各学級からの意見を事前にみんなのコーナーに貼るようにする。
- ・定期的に「みんなの声集め週間」を設けたり、放送や掲示物で呼びかけたりして、みんなで学校のことについて考えながら児童会活動を運営していく雰囲気づくりをする。

視点3 **意欲的に実践するための工夫**…柔軟性のある年間計画の作成

児童の自主的で創造的な活動を進めていくには、それを可能にするような指導計画が必要である。年間の見通しを立てた上で児童の発想や創意工夫が生かされるような計画にする。

<代表委員会の年間活動計画>

4月	1年生をむかえる会・1年間計画
5月	委員会紹介・落成記念集会計画
6月	落成記念集会・児童会テーマを考える
7月	児童会テーマ決定・学級、委員会から
9月	テーマに沿った活動内容決定
10月	前期反省・委員会紹介
11月	学芸会を盛り上げよう・学級、委員会から
12月	(*ロング集会)
1月	(*テーマに沿った活動)
2月	6年生を送る会計画・エセ7計画
3月	6年生を送る会・エセ7募金・後期反省

<運動委員会の年間活動計画>

4月	1年間の活動計画を立てる
5月	倉庫の整理の仕方の掲示作り
6月	プールの準備
7月	ゆずりは音頭・準備運動の練習
9月	飛小ギネス大会の計画
10月	飛小ギネス大会の準備
11月	飛小ギネス大会の集計、結果発表
12月	
1月	
2月	
3月	1年間の活動の反省と申し送り

実践事例 ☆活動名『みんなの声を生かそう』

視点1 **関心を高める工夫**…児童会コーナーの活用

○一年生が学校生活に慣れた二学期始めの9月に、「みんなの声集め週間」を設け、全校のみんなに聞いてほしいことを募集し、『みんなのコーナー』に自由に貼るようにした。

①クラスだけでは決められないこと ②みんなでやってみたいこと ③こまっていること

○一週間が経過した頃、それまでに掲示されていた「みんなの声」のカードを参考にしての様々な声が集まった。

視点2 **願いや思いを生かす工夫**…委員会との連携・願いや思いに応える掲示板の工夫

○計画委員会でみんなの声を一つ一つ検討し、次の三つに分類した。

①代表委員会で議題として取り上げる

・広島の原爆で亡くなった人のために、みんなで折り鶴を作って送りたい。

②各委員会で議題として取り上げるようにする。

・20分休みにも図書室で本を読んだり、貸し出しをしてほしい。→図書委員会

・ゲーム集会やジャンケンジェンカ、カラオケ大会をしたい。→集会委員会

・上級生にドッジボールをおしえてもらいたい。→運動委員会

・外で遊べない日に、カードを持ってきたい。→生活委員会

③自分たちだけでは決められそうにないので先生にあずける。

・20分休みに、晴れていても体育館で遊びたい。

・冬にも温かいものを入れた水筒を持ってきたい。

○「みんなの声」として寄せられたもの一つ一つについては、ありがとうカードを作成し、書いた本人またはクラスに届けた。

視点3 **意欲的に実践するための工夫**…柔軟性のある年間計画の作成

○年度当初は学校生活の諸問題を議題として取り上げる月を6月と11月の2回とした。しかし、一年生は二学期の方が学校生活に対する思いや願いがより明確になり、主張することもできるようになってくる。そこで、2回に限定せず、必要に応じて短時間でも代表委員会で話し合う時間を設定するように年間計画に柔軟性をもたせるようにした。

4 実践を通して

- ・児童会コーナーの設置場所や活用法を工夫したことにより、全校児童の児童会活動に対する関心が高まると同時に、期待や参加意識も高まってきた。
- ・「みんなの声」を各委員会が議題として取り上げることにより、思いや願いをより日常的に生かせるようになってきた。
- ・自分の意見が生かされる機会があることによって、満足感をもち、学校の一員としての意識が高まってきた。
- ・みんなの声が集まり、自分たちの活動が認められたことによって、次への活動意欲が高まり、主体的な取り組みが多く見られるようになってきた。
- ・限られた時間で活動していくためにも、見通しをもって活動できるような支援の工夫をしていく必要がある。
- ・低学年の声の集め方については、担任と連絡を取り合い工夫する必要がある。

VI 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

『望ましい集団活動を通して、自分たちの学級生活や学校生活を楽しむ子どもを育てる指導法の工夫』を研究主題として研究を進めてきた。アンケート調査や活動の見取りなどによる児童の実態の把握から、『学級生活や学校生活を楽しむ』とは「自分を発揮する楽しさ」「集団の一員としての楽しさ」「自分たちで活動する楽しさ」を味わうことと考え、各分科会ごとに、具体的な児童像とそこに迫るための手だてを探り、検証してきた。そこから、明らかになってきたことを以下にまとめた。

- (1) 1年生から、できるだけ子どもの主体性を大切にし、観点を明確にして指導・支援することにより、児童は自分の思いや願いを実現することの楽しさを知り、自発的に活動するようになる。

学級活動(1)の時間を、児童が自分たちで考え、試行錯誤しながら活動する時間にしたと考え、話し合いや集会などで子どもの自主性をできるだけ認めていくようにした。学級の実態に合わせた指導の観点をもち、事前の指導や終末の助言の中で、個人や学級集団の成長を賞賛していくようにした。児童はほめられたり認められたりすることによって、その子なりに自信をもち次の活動への意欲を見せるようになってきている。また、自分たちで考えて、成功したりつまずいたりしながら実践する中で、活動することそのものを楽しむ様子が見られ、よりよい方法を見付けようとする姿勢が感じられるようになってきた。

- (2) 学級会(話し合い活動)や代表委員会の活動を意図的・計画的に繰り返し行っていくことによって、児童に自主的、実践的な態度が育っていく。

発達段階に応じて、児童の中で司会を決め、役割分担をし、学級会で使う用具(黒板に掲示するもの、名札等)を工夫していけるように促した。また、何を、いつまでに、どのように行うかを、意識しながら活動していけるような適切な助言や時間の設定をすることも大切にした。児童は、自分たちの手で、ねらいと見通しをもって活動することを何度も繰り返すことによって、自主的、実践的な態度を身に付けていくことが明らかになってきた。

- (3) 学級活動や児童会活動への関心を高め、意識を常にもてるように工夫していくことや、個の意見が生かされるような機会を設けることによって、所属意識が高まり、活動が活性化していく。

集団の中にあっても、児童が主体的に活動できるように一人一人の意識を高めていくことが重要だと考えた。学級活動コーナーや児童会活動コーナーなどの掲示物や朝の会や帰りの会、放送などを活用することによって、伝える活動を日常化させた。そして、学級の中や、学級と児童会(代表委員会・各委員会)との間で、自分の考えを提案し他に認められていくような機会を設けることによって、児童に集団の一員としての所属意識が高まっていくことがわかった。

2 今後の課題

- (1) 児童の気持ちや思いの見取りを深め、一人一人にあった助言ができるようにする。
(2) 児童の創意工夫を活かすことのできる時間や場の設定を工夫する。

平成13年度教育研究員研究報告書

〔東京都教育委員会印刷物登録〕
平成13年度 第41号

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドゥ・アーバン